

## 千里山会第12回総会の概況

昨年同様今年もまた小雨降る中ではありましたが、比較的暖かな二〇〇八年十一月十六日(日)第十二回千里山会総会が、すっかりお馴染みになった御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開かれました。

会場に一步足を踏み込むと、本年も丹精こめて育てられた河合さん提供の菊の鉢が各テーブルの上に置かれており、正面左サイドの掲示板・長テーブルにいろいろな展示物が飾られてました。

雨のためか遅れて来た方もあり10分遅れの12時10分、大森世話人代表の挨拶で始まりました。出席者は77名で、今回は風邪で欠席された方が数名おられました。

出席者の中には特別参加で大森世話人代表のご兄弟3名(24回生 清様、26回生 梢様、29回生 翠様)と、千三(卒業の伊等千恵様(千二43回生 学区変更で 千三2回生)がおられました。

## 総会 次第

司会 事務局長 奥田 陽一  
 開会  
 挨拶 世話人代表 大森 信  
 特別講演 二十九回生 宇尾(旧姓上田) 史子  
 演題 ハリー・ポッターの翻訳を終えて  
 会計報告・業務報告 事務局長  
 展示の紹介 事務局長

展示内容は以下の通りです。

\* 33回生古村(松川) 陽子さん提供の千里山の地図(各種)及び「千里山を行く」DVD(33回生 石川一男さん撮影編集)  
 昭和34年度版 吹田市住宅地図  
 昭和45年度版 精密住宅地図(吹田市北部)  
 以上は吹田中央図書館にて石川一男さんがコピーされたもの。  
 平成19年度版 千里新田・千三地区連合自治会区域図(これはコピーにあらず)  
 北大阪急行(西)と阪急千里山線(東)に挟まれた千里山西一〜六丁目、千里山竹園町

一・二丁目、春日一〜四丁目、丸山町です。  
 \* 西垣(田中)和代さんから「寄贈いただいた昭和30年3月15日発行の千二学校新聞巻頭に「卒業生に幸あれ」のタイトルで有川清夫校長先生の話が載っております。  
 \* 20回生榊山(旧姓三笠)翠さん提供の08年8月30日 朝日新聞

「丘の上に咲いた文化の華」のタイトルで千里山を紹介(第11号会誌にも掲載)  
 \* 東久子さん提供の東敦子さんのDVD  
 \* テレマン協会第185回定期演奏会開催  
 中野振一郎チェンバロ協奏曲  
 上野 東京文化会館 小ホール

## 閉会

\* 大森世話人代表の挨拶要旨は次頁に掲載  
 \* 宇尾史子氏の特別講演要旨は23頁に掲載

休憩 15分



大森四兄妹と共に 左から29大森翠 20長谷川 21大森信 24大森清 24當眞 24奥田 26大森梢

## ご挨拶

千里山会世話人会代表 大森 信

昨年同様に今日も雨になってしまいました、たくさんの方々にご参集いただき、うれしく思っております。

先月、久しぶりに千里山に行つてまいりました。住宅が少しずつ変わってきてはいますが、周りの乱開発による激しい変貌の中で、家々はそのだけが暖かい雲の下に昔の面影を残して、ここが千里山と云っている様な感じがしました。千里山駅周辺の整備をめぐって、二〇〇五年に発足した千里山まちづくり協議会が改造プランを作り、まちづくりと交通混雑の解消のために努力されていますが、会長だった猪川道生さん（会員、12回生）がお亡くなりになってからは、協議会の声が坂口善男吹田市長（32回生）に届きにくくなったという話です。それで、千里山に住んでおられる山本平八郎さん（会員、15回生）ほかにご協力をお願いしました。いつまでも千里山はひとつもたたくずまいも知的でなごやかであつて欲しいと思つています。

## ハリー・ポッターの翻訳を終えて

二九回生 宇尾 史子  
(上田)



半年ぐらい前のことでしょいか、柿崎様からご依頼がございました、今年の千里山会が開催される頃はちょうどハリー・ポッターの最終巻が出て、きつと話題になつている時なので翻訳の苦労話など、何か話していただけないかというお電話をいただきました。

会誌11号が萩原さんほかのお陰で刊行されました。分厚い会誌を手にして柿崎さんからの引継ぎがスムーズに行われてことをうれしく思いました。その中で平田さんが黒川高秀さんの近況について書いておられます。黒川さんは今年こそ千里山会に出たいとのご希望でしたが、9月にすこし体調をこわされ現在はまだ病院から外出を許されていないとかで、「残念ですが来年はきつと」と奥様からのお話でした。さて、二〇〇〇年ごろ、米国の書店で人がめずらしく並んでいるので、何だろうと尋ねたらハリーポッターの本を買おうとしている人たちだと聞かされたことがあります。K.J. ローリングのハリーポッターシリーズは児童文学の枠を超えた人気作品として世界的な社会現象を起こしました。今日は第一巻から第7巻まで、その作品の翻訳に協力された宇尾史子さん（29回生）に共同翻訳者としての苦労話やこぼれ話をお話しいただくことになっていきます。楽しみです。

毎年のことながら、総会の準備をしていただきました奥田さんほか皆様に感謝します。きょうの午後を楽しく語らい、明日へのエネルギーにしてください。

じつは、もともと私は専業主婦でプロの翻訳家ではありませんでしたので、確かに苦労話は沢山あるんです。もともと、ハリー・ポッターは児童書に分類されておりまして、小、中学生から、いろんな質問をいただきます。最近はどこに行つても私よりお若い方がほとんどで、そう言うお若い方とは、ハリー・ポッターの内容について、ああでもない、こうでもない、何時間でも盛り上がり、夢中でお話はずみずみ。ところが千里山会は、どういうわけか、私でさえ若い部類に入つてしまふ、めずらしいお集まりなので、諸先輩の方々にこのように高いところから何をお話したらよいのかしらと、かなり躊躇いたしました。

ただハリー・ポッターは児童書ですが幅広い年齢層の方に読まれております。

わたしが十年にわたり、つづけてくることができたのは、読者の皆様のお励ましがあつがからで、続きを期待していますよと、周囲の皆様背中を押していただき、パワーをいただき、それがあつたから、頑張つてこれたわけですから、応援して下さい。千里山会の皆様にも、何かお礼ができるなら、この機会を使わせていただこうとお引き受けいたしました。ですから堅苦しく講演だとか講師だとか考えず、

ごく親しい少人数のお友達を前にして、こんなことがあったのよ、実はこういうことだったのというように、思い出話をさせていただく事なら、私にも可能かと思えますので、そのような感じで本日はお話しさせていただきます。

プロの翻訳家が一生かかっても出会えない百年に一度と言われている名作に専業主婦だった私が、運良くかわることができたのはなぜだったのかというところを中心にお話ししようと思います。とりとめのないはなしです。どうぞお気楽にお聴き下さい。

ハリー・ポッターの翻訳が始まりましたのは1999年の1月でした。翻訳者であり、出版社の社長である、松岡佑子が8年の暮れに版權を取りました。このことはすでにマスコミで広く報じられておりますので、松岡佑子の名前ぐらいは皆様ご存じだと思います。その松岡と大学の寮で同じ室だった、私と村松夏子が手伝う事になったわけです。

最終巻までずつと、この三人が翻訳を担当しました。一卷から七巻までの、奥付けをご覧になっていただければ、翻訳協力者として私達二人の名前が書かれておりますが、私たち以外でも編集者、イラスト、

レイアウト等、そこに書かれている名前は七巻までずつと同じです。メンバーはずつと変わりませんでした。

私と松岡佑子との関係は1964年4年以上前に遡ります。東京オリンピックの年です。入学式に大阪から出て行った四月にはまだ新幹線がありませんでした。国際基督教大学の新生としてもちろん希望に胸を膨らませてはおりましたが、親から離れる不安な気持ちを抱えて上京しました。ただ現在もそうですが、ICUは少人数の学校で、私達の学年は男女合わせて、200人です。その半数近くが寮に入ります。私と村松夏子は第二女子寮の309号室に決められていました。その部屋にいたのが、松岡佑子と、もう一人韓国からの留学生でその四人がルームメイトになったわけです。私は2期、松岡は1期です。創立間もないそのころのICUにはまだ家族的な雰囲気があり、親元を離れた寂しさなどすぐに吹き飛んでしまいました。

一部屋に二段ベットが二つと学習机が、壁に向かって四つ。片一方の壁面がクローゼットになっていて、四等分されています。各階に洗面所お手洗いはありましたが、お風呂は一つでみんな裸の付き合えるスケールの大きい冒険物語ですが、私たちの人生も考えてみれば、あれはまるでドラマを見ているようだったと思うような出来事もあります。

いでした。マンモス大学に通う今の学生がワンルームマンションで暮らすのとは全く違う環境でした。地方から東京の大学に進学すればその当時は寮があれば寮に入るのが一般的でしたし、ほかの大学の寮の話を聞くと、隙間風の入る、木造二階建てだったり、お部屋が畳で足が痛いとか、暖房が火鉢の所もあつたぐらいですから、鉄筋三階建て、冬になるとスチームの暖房が入り、一階にはリビングルームのあるICUの寮は誰もがうらやむ立派な寮でしたが、私たちは狭い部屋で個人のプライベートなど全く無く四人で寝起きを共にしました。

卒業してからは私はすぐ結婚しましたし、松岡は同時通訳のキャリア・ウーマンでしたので、それ以後は接点がないまま、ずつと年賀状のやり取りぐらいの関係でした。

でも、松岡に手伝つてと言われたら、何を手伝うのかはわからなくても、引き受けるのが当たり前だと感じていましたので、まさかこんな話題になる本の翻訳に携わることになろうとは最初も夢にも思いませんでした。

ハリー・ポッターは魔法使いの少年を主人公とす

私たちの寮生活が始まってしばらくたった頃から、私たちのドラマの中には、もちろん私たちは二十歳になるかならないかの若ものでしたから、青春ドラマですので男性が登場します。ちなみに松岡佑子の旧姓は松浦です。ですから松浦佑子のボーイフレンドの松岡幸雄が登場するわけです。彼は、寮には住まず三鷹に下宿していて、大学の講義が物足りないと言うほど、思索を好む哲学青年でした。私達の寮は教育寮と言われ、清く正しくで、門限もございません。

10時半と言うのは当時の三鷹が今よりずつと辺鄙だった事を考慮に入れても、他の大学の寮に比べてもゆるやかで自由がありました。私たちは門限を不便と感じることはありませんでした。外出時は自分の名札を字が赤い方にひっくり返し、帰ってきたら、黒い字の方に戻しておきます。お当番がそれを確かめて、寮母さんに報告し、鍵をかけます。

ところが松浦佑子さんの名札が赤いまま門限の時間が迫ってしまう日がだんだん増えてきました。私と

メロカ版の英語版が二巻まで出ていてアメリカではベストセラーになっていました。ですから、作者のローリングも幼い娘を抱え、生活保護を受けながら、コーヒー一杯で粘りながら、カフェで執筆したと言う伝説は過去のものになっていました。すでに代理人が全てを仕切っていて、交渉ごとには作者自身が絡むことは全くありませんでした。日本からは、3社ぐらいが版權獲得に名乗りを上げていたようです。

ここでまた松岡幸雄の登場です。もちろん彼は亡くなっていますが、松岡佑子には赤字だらけの出版社と、松岡幸雄の生命保険がのこされていたわけです。

ファンタジー、特に翻訳モノは日本ではあまり売れません。ナルニアとか指輪物語とか特別なものは別ですが、ベストセラーになることはありません。版權を取ろうと思ったとき、日本の出版社が最初に提示する版權料は少額でよいそうです。何万部以上売れたら、それ以後は売り上げの何パーセントか版權料として追加されるわけです。松岡佑子は出版に関しては素人でしたので、素人の強みでしょうか、弱みでしょうか怖いもの知らずで、松岡

村松さんはそつと松浦さんの名札を黒に返しておきお部屋の窓から外を覗いています。しばらくすると下で庭の木が不自然な揺れ方をしたり、下から小枝が飛んできたり、投げた小石が外壁に当たります。それが合図で、私たちのどちらかがそつと下に降りて、玄関の鍵を開け松浦さんを入れます。携帯電話などという便利な物がない時代その様に子供っぽく門限破りのお手伝いしたことなど、楽しい思い出がたくさん詰った寮生活でした。

先ほど申し上げましたが、その後私達は別々の道歩んでおりましたので、しょっちゅう会うことはありませんでしたが、そんな寮生活を送った仲間でしたので、松岡が手伝ってくると言ってきた時『出来ません』とか『無理です』という選択肢は私にはなかったように思います。

ここで私たちのドラマはしばらく中断します。卒業してから十数年が経ちます。松岡幸雄は大手出版社を辞めた後、社員は自分ひとりだけの小さな出版社を作り、まじめで、硬い、社会派の売れない書物を黙々と出版した人です。残念ながら、松岡幸雄氏は志半ばにして病に倒れ、<sup>5</sup>9年のクリスマスに<sup>8</sup>5歳

幸雄の生命保険の中から常識的な金額以上のものを提示したそうです。ハリー・ポッターの一卷の版權が静山社に落ちた事で、ドラマはクライマックスに向かいました。

私共は、1964年の私達三人の出会いから、このクライマックスに向かって、私たちの知らないところで、何か大きな力が働いて、準備され、用意された宝物のように感じましたので、英語で読んで、こんなにおもしろい本が、翻訳調になって、面白さが損なわれてしまつては申し訳ないと、丁寧に時間をかけて、よい翻訳をしましうと、すぐに心が一つになりました。ですから私たちにとりましても、それからはあつという間のハリー・ポッターの十年だったわけです。

この物語を翻訳する上で一番の問題は先が分からないという事でした。私共翻訳者にも原作は発売日まで読むことはできません。常に世界中同時発売です。どこかで漏れて海賊版が出回つたら困るので、イギリスではそれはそれは厳重に管理されています。私ども関係者といえども原作発売前に原稿を見せてもらうとか、内容を教えてもらうようなことはありません。

の生涯を終えました。妻である松岡佑子には、出版社は潰してよい、君は広い世界で自由にはばたけと、言い残して逝つたそうです。赤字だらけの静山社を潰さずに引き受けた松岡佑子の先見の明がなかったら、ドラマはそこで終わつていたと思います。

残された、静山社、同時通訳という自分のキャリア、何か翻訳本が出せないか？アンテナを張り巡らせながら、イギリスに旅行した時出会ったのが、ハリー・ポッターの、第一巻であるハリー・ポッターと賢者の石だったわけです。

一晩で読み終え、その魅力に取りつかれてしまった松岡は翌日から、メールで、ファックスで、電話で、堪能な英語を駆使して原作者、R・ローリングの代理人にコンタクトを取り、私の出版社から出したい、私が翻訳したいと訴え続けました。二カ月後『あなたに決めた。情熱が何より大切だ』というメールが来て、松岡が版權を獲得したとマスコミには紹介されています。

実は当時はイギリスでの英語版はすでに二巻まで発売されていましたが、アメリカの大手出版社ラスティック社が、版權を取っていましたので、ア

結末が全く分からないうえに、魔法使いの世界ですから、マグルの常識で判断してしまうと、思いがけないどんでん返しが出てくることもあり、原簿発売の少し前にその巻の本の題名が発表されるのですが、タイトルさえびつたりとの日本語に訳せないこともあり。5巻以降はそのような状況でした。

例えば五巻の、日本語の題はハリー・ポッターと不死鳥の騎士団です。ピンク色の表紙です。英語の題名はOrder of the phoenix でした。日本語では辞書を引くとお分かりになります。order には20ぐらい日本語の訳があります。レストランで注文するときもおオーダーです。整理整頓、とか順序とか命令とかいろいろあるわけです。

ところが題名が発表された当時新聞雑誌ではすぐにフェニックス勲章と勝手に訳してしまっていました。当然それが独り歩きしてしまいました。Order を勲章と訳してしまつては、当たる確率は二十分の一ですからそれはちよつと困る。いろいろ調べて、試行錯誤の末イギリスには有名なアーサー王伝説と云うのがあり、その中に円卓の騎士団が出てくる、この騎士団がorderなので、不死鳥の騎

士団を静山社の正式な題名として発表し、祈るような思いで原簿の出版日を待ちました。それは見事に当たり、一同胸をなでおろした事もありました。

作者のローリングと言う人は、素晴らしい感性の持ち主で、想像力も表現力も、あらゆるジャンルの知識の引き出しも、豊富にある人ですが、かなりのアバウト人間なんです。数字には弱い人です。三日前なら、土曜日だと計算すればすぐわかるはずなのに、数ページ後でそれは日曜日のことだったと書いてあったり、ホグワーツは7年制の学校なのに、計算してみたら、ある一人の生徒がどうしても8年在学している事になっていたり、またまたこのはずが、どこか別の個所ではいとなつていたり、そのような個所がたくさんあります。当然あちらこちらから指摘されますから、作者の代理人から訂正は入ってきます。でも作者自身は土曜日でも日曜日でもたいして変わらないじゃない。ストーリーの面白さが損なわれるわけではないから、そんな些細な事は気にしないでつとストーリーを楽しんでよと言うスタンスでした。

自分のついている時そんな些細なことを気にしていたら、全体のスピード感が損なわれてしまい、か

えつて退屈な文になってしまう。それは確かです。流れのあるローリングの英語はグイグイ引きつけられて場面が浮かび登場人物の音が聞こえてきます。どんだんびつたりとの日本語が浮かびますので、そのまま出版することになります。でも、コンピュータ時代の現在は頭の中がデジタルな人もたくさんいてちよつとつじつまが合わない個所が出てくるとどうしても先に進めない読者の方が大勢いらっしゃると思います。

小学生のお子さんは何度も何度も読まれますので、ここはおかしいところ指摘がよくありました。原作者からの訂正が後手に回ることもよくありました。

お読みになった方で、ハリーのお母さんがリリー、でもハリーが一歳の時にリリーはヴォルデモートに殺されたので、ハリーはおばさんのペチュニアの家で11歳まで育てられたことは覚えていらつしやると思います。リリーとペチュニアは英語でいえばシスターの間柄です。どちらが姉でどちらが妹か、原作には出てきません。

日本語の場合は姉妹だと違和感があつて、日本語らしくないので、一巻でリリーを妹にして、訳しまし

た。

実は、松岡をはじめ私も村松も長女でしたので、美しく、優しく何でもできて素晴らしい女性のリリーを姉にすることは遠慮して、妹に花を持たせようと配慮したつもりです。

その後、松岡がローリングに会う最初で最後の機会があり、私はリリーを妹にしたけれど、貴方はどういうつもりだったの？と尋ねました。その時ローリングが別にどちらでもあまり関係ないから、あなたの好きにしたいのよ、でも私はリリーは姉のつもりだった、と答えたそうです。3巻で二人の関係が再び出てきたとき、どつちでもいいと言われたけど、聞いてしまった以上、やっぱり変えようということになり、3巻ではリリーは姉と訳しています。一巻の増刷分からもリリーは姉にしました。

日本語で書くときは叔父、叔母も漢字が変わりますので、それも変えました。

一巻ではリリーは妹だったのに、三巻で姉とはどういうことかと熱心な読者の方から、頭のデジタルなことから、魔法界では時々姉と妹が交代するのか、

とお問い合わせが相次ぎ、イメージが混乱してしまつたという苦情が続き、皆様に事情を説明して何年もかかつて、ようやくリリーは姉で落ち着いたとき、最終巻が発売されました。

その中で、リリーは姉のつもりで書いたけど、でもどっちでもいいわと言つていた作者本人がそれをすっかり忘れてペチュニアが姉だとわかるエルダーという言葉葉を二か所使つてペチュニアをすっかり姉にしていたんです。二人がまだ幼いころで、スネイプの思い出の中に出てくる場面です。

もう一度元に戻して混乱を招きたくないし、これはローリング流にストーリーが楽しければ些細な事な気にしないで行くよりほかないと決めました。簡単に言つてしまふなら、エルダーは訳さないことにしたんです。姉妹はアバウトに翻訳することになったのです。当然叔父叔母の漢字も使えませんが、ひらがなにしました。もし英語の原作を丁寧にお読みになった方がいらつしやればびっくりなさつたはずです。もし、日本語版をもう一度お読みになることがあれば、一巻、三巻、七巻でリリーとペチュニアの関係がどうなつているかちよつと注目しながら、お読みになつてみるのも楽しいかとおもいます。

## 懇親会 次第

- 司会 二十七回生 萩原 直大
  - 開会
  - 乾杯 十回生 徳田 迪夫
  - 祝電 前衆議院議員 藤村 修
  - 遠来者・特別参加者紹介 司会者
  - 挨拶 千三二回生 伊藤 千恵
  - みんなで歌いましょう 合唱隊
  - 閉会 三十九回生 増田 泰邦
  - 校歌斉唱・今日の日よさようなら 全員
- 乾杯の音頭は千里山会皆勤の十回生徳田様にお願ひしました。同氏は東京高等商船(現大船)をご卒業で、日本郵船で七つの海を航海された船長から、専務取締役就任、退任後は東京・神戸の商船大学卒の集まりである《社団法人海洋会》の会長を長年務められました。この会は親睦の他に、海運海洋全般について調査研究発展に役立つことを目的とされています。千里山会では01年6月まで会計監事をお引き受けいただきました。

そんなこんなで、いまだに爆弾を抱えているんですが、ようやく日本語版最終巻の出版を終えまして、十年間にわたる大きなプロジェクトは終了いたしました。7巻についての感想ご批判などはこれからも、ご指摘が続くと思いますが、今のところまず大きなミスはなかったようなのでスタッフ一同ホツとしてる状況です。

ハリー・ポッター友の会というファンクラブもあつたのですが、先月のハロウィーンで解散、終了しました。すべてが終わつた今、思いつくまま、苦労話をまとめてみました。なんだか週刊誌の記事みたいなのに、ゴシップをかき集めたような話題しかご披露できませんでしたが、ハリー・ポッターは大人が読んでも十分面白くハラハラドキドキの連続で、それでいて心がいやされる物語です。今後ともどうぞハリー・ポッターの世界をお楽しみになつて下さい。

した。会誌創刊号に「白い看板」の題で、千里山から豊中への徒歩通学途上の情景や、後年航海中に豊中時代の英人恩師との偶然の再会など懐かしいお話を寄稿していただきました。

- 遠来者・特別参加者紹介 ○内の数字は回生
  - 小川(伊達) 雅子(13・吹田市丸山町)、山本平八郎(15・千里山)、松村信男(16・ハワイ)、和田忠博(20・神戸)、樺山(三笠) 翠(20・千里山)、芹田和雄(21・高槻)、大森清(24・西宮・特別)、細見彰(26・京都)、瀧(大森) 梢(26・千里山)、林裕三(27・伊勢)、細見正(29・寝屋川)、大森翠(29・千里山・特別)、増田泰邦(39・宇都宮)
  - 伊藤 千恵様 紹介と挨拶
- 先述のように、千二・千三の掛け橋のような方。月刊誌「産業新潮社」の代表取締役でもあります。関大馬術部のコーチをされ、昨年馬事公苑での大会を優勝に導かれました。ご自身も奈良女子大時代からの騎手で、全日本馬術大会のタイトルホル



10 徳田 13 米倉 11 伏見 13 美川・仲辻 12 石川  
13 伊達 9 飯島



23 片山 14 山崎 18 山崎 14 柿崎・三分一 18 名田  
18 劉 18 井上

ダー（馬術には男女別はない）でもある方です。  
合唱隊とともに みんなで歌いましょう  
千里山会の定番 大きな古時計 に始まり、燈  
台守、あこがれの郵便馬車、小さな世界、明日が  
あるさ、荒城の月など  
閉会にあたっては若手グループを代表して 39  
回生の増田泰邦氏に中締めをお願いしました。  
閉会の挨拶の後は、これまた千里山会定番のト  
リとしての全員参加による校歌と今日の目よさ  
ようならの合唱で来年の再会を約して無事終了。  
今年もまた受付、会場設営・準備に当たり次の  
方々に終始ご協力を賜りました。  
26 回生の奥田（渡部）英子・児玉（服部）絢子・  
澤田（大貫）操子、27 回生 宮林（村田）芳子、  
29 回生 芦田英雄の諸兄姉。  
写真は、26 回生 細見彰、27 回生 林裕三の諸  
兄にご協力願ひ、心より厚く御礼申し上げます。



合唱隊演奏



39 増田 21 芦田・平田 33 佐々木 43 伊藤(千三 2)  
21 高田・大森・小原・大久保



24 奥田・當眞・服部・大森・河井  
25 山崎 22 尾川原 24 浜村・河合



16 松村 15 赤羽 16 清水 17 宮中・神谷・高橋  
17 吉田 15 高橋・山本



20 長谷川・久保 35 石井 20 柏倉・三笠 33 松川 32 藤本・足高  
20 和田 32 深川・一井



29 小田 31 石井 29 上田・岩瀬  
29 細見・大森・芦田



全員 26 大貫・大森・細見・村岡  
赤松・中瀬・服部・渡部



合唱隊演奏



全員 27 村田・林・萩原  
大石・松川・吉田・柏倉

千里山会2008年総会・懇親会 出席者名簿

2008.11.16

お茶の水ガーデンパレス 平安の間  
(回生別・五十音順・\* 印初参加)

経過報告

- 08.09.01 会誌11号編集打合せ  
14柿崎眞吾 27萩原直大 24奥田陽一
- 08.09.10 会誌11号編集・印刷所打合せ  
14柿崎眞吾 27萩原直大 24奥田陽一
- 08.09.11 合唱隊打合せ 場所：東京国際ホテル  
22尾川原奈美江 24河合和子 27城戸三千代 32古川道子  
24奥田陽一
- 08.10.06 会誌発送用封筒準備  
24奥田陽一 26奥田英子
- 08.10.07 会誌11号及び総会案内状を発送、  
会誌11号を千里山・佐井寺図書館へ寄贈  
14柿崎眞吾 27萩原直大 林 裕三 宮林芳子 24奥田陽一
- 08.10.30 合唱隊練習 場所：国際ユースホテル
- 08.11.06 お茶の水ガーデンパレスと総会準備の打合せ  
27萩原直大 24奥田陽一
- 08.11.16 2008年度 総会・懇親会 (詳細 会誌12号)
- 09.01.21 会誌12号編集打合せ 14柿崎眞吾 27萩原直大  
24奥田陽一
- 09.01.22 会計中間決算作成・チェック 27宮林芳子 24奥田陽一
- 09.06.01 会計08年度決算書類作成 最終チェック依頼 24奥田陽一
- 09.06.03 会誌12号編集打合せ 27萩原直大 24奥田陽一
- 09.06.04 会計決算書類チェック完了 27宮林芳子 24奥田陽一
- 09.06.13 会計監査 21平田 坦 24奥田陽一
- 09.06.27 会誌12号編集打合せ  
14柿崎眞吾 27萩原直大 24奥田陽一
- 09.07.03 会誌発送用封筒印刷
- 09.07.10 会誌12号編集完了印刷所に依頼  
14柿崎眞吾 27萩原直大 24奥田陽一

- 9回生 飯島泰蔵
- 10回生 徳田迪夫
- 11回生 伏見千瑞子
- 12回生 石川忠志
- 13回生 仲辻 章、美川州平、米倉和八郎、小川(伊達)雅子
- 14回生 柿崎眞吾、三分一克美、岡本(山本)郁子
- 15回生 赤羽隆夫、高橋景一、山本平八郎
- 16回生 清水健至、松村信男
- 17回生 高橋一三、宮中 博、石田(神谷)明子、山本(吉田)恵子
- 18回生 山崎不二雄、小木曾(名田)文子、川上(井上)信子、寺澤(劉)美代子
- 20回生 久保利也、長谷川宏有、和田忠博、樺山(三笠) 翠、中内(柏倉)国子
- 21回生 芦田和雄、大森 信、高田 亘、平田 坦、大久保千尋、  
土橋(小原)美智子
- 22回生 尾川原奈美江
- 23回生 佐怒賀(片山)弘子
- 24回生 大森 清\*、奥田陽一、河井康郎、當眞健夫、服部宏紀、秋山(秋山)昌子、  
河合(五十嵐)和子
- 25回生 牧村佳那子
- 26回生 細見 彰、村岡 進、奥田(渡部)英子、児玉(服部)絢子、澤田(大貫)操子、  
下野(中瀬)龍子、関(赤松) 玲子、瀧(大森) 梢
- 27回生 萩原直大、高見信雄、林 裕三、城戸(吉田)三千代、戸島(大石)松子、  
本川(松川)淑子、増田(柏倉)加子、宮林(村田)芳子
- 29回生 芦田英雄、岩瀬琢郎、小田恂司、細見 正、宇尾(上田)史子、大森 翠\*
- 31回生 杉山(石井)秀子
- 32回生 足高清司\*、一井邦敏、深川秀之、古川(藤本)道子
- 33回生 佐々木成人、古村(松川)陽子
- 35回生 石井庸三
- 39回生 増田泰邦
- 43回生(千三2回生) 伊藤千恵

以上77名

## 【2008年度 千里山会収支表】

08年4月1日～09年3月31日

2009年3月31日

収入	金額	支出	金額
前年度繰越	711,692		
年会費 221名	442,000	通信費	126,650
		振込手数料	525
内訳 07年 2名	4,000	文具・コピー費	18,747
08年 219名	438,000	打合経費	28,954
09年 名	0	慶弔費他	36,392
		会誌11号作成費	387,770
振込手数料(会費振込分)	-17,360	会員名簿作成費	
その他	450		
利息	830		
小計	425,920	小計	599,038
懇親会費 77名 @8,000	616,000	会食費	691,086
		写真費	
		合唱隊諸経費	8,000
		記念品費	
		小計	699,086
寄付金 10名	105,620	繰越	561,108
合計	1,859,232	合計	1,859,232

参考 基金総額：617,000円 (1996年募集)  
寄付累計：870,882円 (1996/4～2009/3 延110名、含切手寄付)

本日、千里山会の会計監査をした結果、処理は適正且つ正確であるものと認めます。

2009年6月13日

監事 平田 坦